

「がい数を使った計算」とは？見積もりのしかたをわかりやすく解説

がい数を使った計算を使う場面（見積もる場面）

「約20000円」「だいたい40%」「ほぼ1000人くらい」のような「およその数」のことを「がい数」といったよね。

今回は、がい数を使った計算を勉強していくよ。

がい数を使った計算を「見積みつもり」というんだ。

どんなときに、がい数を使って計算をするのだろう？

たとえば、ぶんぼうぐ屋さんで次の3つを買おうとしているとしよう。



193円



89円



214円

レジにならぶまえに、「だいたいいくらかな？」と考えるとして、それぞれのこまかい金がかくて「 $193 + 89 + 214$ 」と計算するのは大変だよね。

そんなときに役立つのが「がい数」だよ。



193円は、およそ200円だよね。

89円は、およそ100円。

204円は、およそ200円だよね。

だから、およその合計の金がかくは

$$200 + 100 + 200 = 500$$

3つを買うと、「およそ500円だな。」とわかるね。

こうやって、がい数を使った計算は、買い物のに役に立つんだ。

今回は3つの商品だったけど、4こ、5こふえると、見積もりがもっと大切になっていくんだ。

見積もりのしかた

見積もりのしかたを問題でかくにんしていこう。

四捨五入して百の位までのがい数にして、次の計算を見積もりなさい。

(1) $843 + 469$

(2) $1534 - 216 - 392$

百の位までのがい数にするということは、十の位を四捨五入するよ。



(1) $843 + 469$

843を四捨五入

843の十の位は「4」だよな。

8**4**3

「4」を四捨五入すると、切り捨てだから、
「4」を「0」にしよう。

8**4**3
0

四捨五入したけたの右にある数を「0」に変えよう。

8**4**3
00

469を四捨五入

469の十の位は「6」だよな。

4**6**9



「6」を四捨五入すると、切り上げだから、上の位に1を加えて、「6」を「0」にしよう。

$$\begin{array}{r} 4\cancel{6}9 \\ 50 \end{array}$$

四捨五入したけたの右にある数を「0」に変えよう。

$$\begin{array}{r} 4\cancel{6}9 \\ 500 \end{array}$$

計算する

$$\begin{array}{r} 8\cancel{4}3 + 4\cancel{6}9 \\ 00 \quad 500 \end{array}$$

見積もると

$$800 + 500 = 1300 \text{ になるよ。}$$

$$(2) 1534 - 216 - 392$$

3つの数の十の位を四捨五入すると次のようになるよ。

$$\begin{array}{r} 15\cancel{3}4 - 2\cancel{1}6 - 3\cancel{9}2 \\ 00 \quad 00 \quad 400 \end{array}$$

見積もると

$$1500 - 200 - 400 = 900 \text{ になるよ。}$$



四捨五入して上から1けたまでのがい数にして、次の計算を見積もりなさい。

$$(1) 342 \times 36$$

$$(2) 4116 \div 21$$

上から1けたまでのがい数にするということは、上から2けた目を四捨五入すればいいんだよね。

$$(1) 342 \times 36$$

上から2けた目を四捨五入すると次のようになるよ。

36の場合は上から2けた目は「6」になることに気をつけよう。

$$\begin{array}{r} 3\text{④}2 \times 3\text{⑥} \\ 00 \quad 40 \end{array}$$

見積もると

$$300 \times 40 = 12000 \text{ になるよ。}$$

342 × 36 を正かくに計算しようと思ったら、筆算しなくちゃできないよね。

見積もりを使うと、筆算を使わなくても「およその答え」を求めることができるんだ。

$$(2) 4116 \div 21$$

上から2けた目を四捨五入すると次のようになるよ。



$$\begin{array}{r} 4\cancel{1}16 \div 2\cancel{1} \\ \underline{000} \quad \underline{0} \end{array}$$

見積もると

$4000 \div 20 = 200$ になるよ。

「がい数を使った計算」のまとめ

- ・がい数を使った計算のことを「見積もり」という
- ・見積もりを使うと筆算を使わなくても、およその答えを求めることができる

